

令和元年 8 月 21 日

全国国公立大学
研究科長 殿
学部長 殿
関係機関長殿

国立大学法人 東京大学
医科学研究所 所長
山梨 裕司
(公印省略)

東京大学医科学研究所
教授候補者の公募について (依頼)

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、本研究所では新たな分野の教授候補者の選考を行うため、下記のとおり国内外から募集することとなりました。つきましては、貴大学及び貴機関・関連機関にご周知いただきますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 所属 東京大学医科学研究所 (東京都港区白金台 4-6-1)
2. 職位及び人数 教授 若干名
3. 専門分野 広く生命科学、生命情報科学の分野で卓越した研究業績をあげ、高度な学識と見識を持ち、専門分野の研究において世界的なリーダーとなる人材を求めます。
4. 採用予定日 決定後、可能な限り早期の着任を望みますが、相談に応じます。
5. 応募期間 令和元年 10 月 4 日 (金) 必着

6. 待遇 着任後は准教授1名、助教1名の採用が可能です。給与等は
東京大学における各規定の定めるところによります。
7. 勤務形態 常勤。(任期無し)
当研究所の定めにより、満55歳を迎えた翌年度から任期制に
移行する。
再任可(1回限り。定年年齢65歳)。
8. 提出書類
- 1) 履歴書(別紙様式1)
 - 2) 業績目録(別紙様式2)(各論文に2018年度版Impact factorを記載のこと)
 - 3) 主要論文10編のリスト
 - 4) 専門分野における研究実績と今後の抱負(任意様式):それぞれA4用紙 1枚まで
 - 5) 上記1)~4)と3)については10編のPDFファイルを保存したCD

提出先 〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1 東京大学医科学研究所 管理課 人事給与
チーム

※ 封筒表面に「東京大学医科学研究所教授選考応募書類」と朱書きの上、書留で郵送して
ください。

問い合わせ先: 東京大学医科学研究所 癌防御シグナル分野 中西 真 (fuku-mn@ims.u-
tokyo.ac.jp)

以上

様式 1

履歴書

氏名:

昭和 XX 年 XX 月 XX 日生 XX 歳

勤務先: XX 大学 XX 研究所

XX 県 XX 市 XXXX、電話: XX-XXXX-XXXX

現職:

学歴

昭和xx年x月 xx 日 xx大学x学部xx学科入学

昭和xx年x月 xx 日 xx大学x学部xx学科卒業

昭和xx年x月 xx 日 xx大学x大学院xx学系研究科 XX 専攻入学

平成xx年x月 xx 日 xx大学大学院x学研究科 XX 専攻博士課程修了、XX 博士

職歴・研究歴

平成xx年x月 xx 日 アメリカ合衆国、XX 研究所、研究員

平成xx年x月 xx 日 東京大学医科学研究所、助手

平成xx年x月 xx 日 XX 大学医学系研究科、助手

平成xx年x月 xx 日 XX 大学 XX 研究所、教授、現在に至る

資格: optional

所属学会: optional

賞罰等:

昭和xx年 xxx奨励賞

昭和xx年 xxx学術賞

平成 x年 xxx賞

※現住所、個人の電話番号は個人情報のため記載しないようお願いいたします

様式2

業績目録

発表論文等

1. XXXX, K-Tsuzuku J, Ajima R, Nakamura T, Yoshida Y, Yamamoto T.
Phosphorylation of three regulatory serines of Tob by Erk1 and Erk2 is required for Ras-mediated cell proliferation and transformation. Genes Dev, in press. IF:XX
2. XXXX, Su Ih IH, Tezuka T, Yasuda T, Mikoshiba K, Tarakhovsky A, Yamamoto T.
BANK regulates BCR-induced calcium mobilization by promoting tyrosine phosphorylation of IP3 receptor. EMBO J. 2002 Jan 15;21(1-2):83-92. IF: XX
3.

発表業績リストは以下の1)～4)に分けて、上記記載例のように、NLM（米国国立医学図書館）形式で年代を遡って記載する。

in pressまでとし、in preparation, submitted, in revisionは加えない。

1) 査読付き欧文国際雑誌に掲載された原著論文（情報関連分野については査読付き学会発表も加える）。各論文に2018年度版Impact factorを記載のこと。

2) 欧文国際雑誌に掲載した総説。

3) 欧文著書。

4) 生命科学分野以外の研究領域においては、評価の対象となるその他の形式による業績を加えてもよい。

※発表年・ページ数の標記に注意

※発表論文リストの雑誌名標記は、「NLM 略称」を使用すること

研究費獲得状況（過去5年間）

- 1) 公的資金
- 2) 民間助成金

その他特記すべきこと